

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニスト

リー (CJM) 2006年秋

60周年記念

金城ノリー-CJM総理事

2006年6月24日に開催されたCJM60周年記念祝典は、期待に答え、心に残る素晴らしい一時となりました。BC州リッチモンドのフロータ・シーフード・レストランで行われ、驚きと興奮の連続する中幕を閉じました。200人以上の人が出席し、会場のあちこちから笑い声や歓声がおこりました。長年来の友人と再会し、握手や抱擁を交わすなどの場面も多々見られました。

豪華な10コースの中華料理に続き、CJM役員の刈谷ポールさんによるすばらしい司会、バンクーバー日系福音教会レディーズトリオ、恵みバプテスト教会ユースによる特別賛美や、米沢興讓教会によるアンサンブルがあり、また長年キャンプに携わった年長者の方々が、1950年代から80年代にかけてのキャンプの様子をかいつまんで話してくれました。(ページ4に続く) *





秋山賢牧師 真理夫人
創平君（7）有紗ちゃん（5）

秋山牧師は、プレーリー聖書学校、ブライアクレスト神学校を卒業されており、2004年6月1日よりCJMのもと、アルバータ州レスブリッジでフルタイムの奉仕を始められました。

秋山師は、レスブリッジで長期に及び、教会の開拓に従事するよう召命を受けていると強く感じています。LJCF代表者は2006年6月のCJM総会で、教会が短期、また長期においても持っている目標を発表してくれました。それに応答しその場の出席者は、レスブリッジに教会が形成されるといふ長期目標を強く支持しました。

このミニストリーのためのお祈りと献金を心から感謝します。*

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

CJM Treasurer
Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2Y1

Tel.: 905-949-4182

1976年、カナダ人を通してイエス様を救い主として受け入れた林崎和彦さんとあけみさん。日本人の救いのために祈り始め、カナダ人教会の礼拝の後、自宅を開放して礼拝のメッセージを日本語に訳し、集まった日本人と恵みをシェアし合い、祈り合い、励まし合ってきました。



林崎和彦さんとあけみさん

そんなレスブリッジの日本人の集まりに、1981年、坂本とも子先生が導かれ、レスブリッジジャパニーズクリスチャンフェロシッとして礼拝が始まりました。そして今年で25年。坂本先生の後、カルガリー日系人福音教会の牧師だった畑野弘先生、柴田順先生が兼牧してくださり、1997年からプレーリーバイブルカレッジの学生だった私が3年間奉仕し、その後、CJMから中尾善之介先生が派遣され、2004年より私達が中尾先生の働きを引き継ぎました。

坂本先生がレスブリッジを去られた1985年から中尾先生が派遣されるまでの16年間は、レスブリッジに住んで牧会される先生がいない中で集まりは続けられました。背後には多くの方々の祈りがありました。集会などがあると、カルガリーから応援に来てくださるカルガリー日系人福音教会の方々の励ましもありました。プレーリーバイブルカレッジの日本人神学生の方々がサンデースクールの先生として、奏楽者として片道250キロを通過って献身的に奉仕してくださった頃もありました。

教会では、25周年記念礼拝とBBQを9月24日に教会内外の多くの方々と共にもちました。

専任の働き手が与えられて今年で5年。教会形成、信徒の霊的成長、地域伝道、学生伝道。結ばれた実をみる恵みに預かると同時に、自立を目指す教会としての課題も見えてきました。私達自身の足りなさも痛感しています。この25年間の神様の恵みと祝福に感謝しつつ、レスブリッジジャパニーズクリスチャンフェロシッ教会がさらに神様の御心にかなった教会として成長し、教会を通して宣教の働きが拡大していくことを切に祈っています。*



25周年記念礼拝—2006年9月24日
レスブリッジジャパニーズクリスチャンフェローシップ（ファーストバプテスト教会にて）

カルガリー日系福音教会

ウェブサイト：www.calgarygospel.com

谷口洋一牧師、ミユキ夫人
アガサさん (17) マナさん (10)

谷口洋一牧師 (日本語部)

今年の夏は、いろいろなエキサイティングな主の御業を見させていただきましました。まず、サニーサイドキャンプで、カルガリー教会 (日本語部) から、10人 (小学生3名を含む) の方々が主を受け入れました。そのうち、2名がキャンプ場のシルバンレイクで洗礼を受けました。また癒しもありました。右耳の聴力を失くしていた婦人が、講師の先生の祈りを通して、聴力を回復されました。ハレルヤ!

その後、8月には、バンフグレース教会の方々の助けを受け、5名がバンフの湖で洗礼を受け、また、その2週間後に、ボーリバーで、2名が洗礼を受けました。今もなお、主のくすしい御業が進んでいます。長年、祈り続けていた方々の中の幾人かが、信仰告白をされました。

10月13日からの週末には、シアトルから金田先生をお迎えして、秋のリトリートがもたれます。今年、教会での祈祷会もひとつ増え、週に3日間のきとう会を持っています。3箇所での家庭集会に加え、10月からはノンクリスチャンのためのアルファEコースも始まります。私たちは、これからも、Purpose Driven Churchの5本の柱を土台にして、教会全体が、着実に力をつけ、成長していくことを祈り願い求めています。*

エドモントン日系キリスト教会

祈りの力

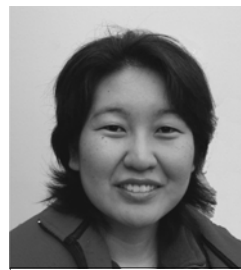
この度、CJMの60周年記念集会に出席し、その働きの歴史と重要性を把握出来た事はとても有意義だったと思います。エドモントン日系キリスト教会が、実はCJMの働きによって始められたことを私は知らなかったのです。今回の記念集会での話や高野昭師 (現米沢興讓教会牧師) の証しを聞くまでは、秦野フィリップ師がCJMと深く関わっていらっしやったことに気付いていませんでした。エドモントン教会がスタートする以前に、一夏の間、エドモントンでCJMの伝道師として働いていらっしやった高野師が、この街のために祈られたそうです。私がこの事を初めて知ったのは、祈りの伝道チームの一員として興讓教会を訪ね、高野師の証しを聞いたほんの去年のことでした。私たちの小さな教会から祈りのチームを遣わして興讓教会のために祈らせ、実は、その教会の牧師が何十年も前に、すでに私達のために祈ってくださっていたことを発見させるという、神様のなさることに本当にびっくりさせられます。神様は祈りに応えてくださるお方であることを、このように素晴らしい方法でお示しくださったことを思い、涙を禁じえなかった私です。そして、この夏には、興讓教会から約22名のチームがカナダの日系諸教会を訪れ、旅行の日程がそうなるように組んで、バンクーバーで行われたCJMの60周年集会に参加して帰って行かれました。祈りには、力がありますね!

米沢興讓教会員
エドモントン訪問 (2006年6月)

もう一つ、祈りには力があることのよい証しとして、今夏のサニーサイドキャンプでのダフィー尚榔君の洗礼が挙げられます。尚榔君は、5月頃から家族と共にエドモントン教会に来会し出し、その後、水曜夜の聖書研究会や他のいろいろな行事にも参加するようになりました。尚榔君と家族のために、教会として真剣に祈り続けたのです。そして、神様は私たちの祈りにお応えくださり、尚榔君はキリストを受け入れ、シルバン湖での洗礼を希望しました。祈りが聴かれ、また、尚榔君が今では賛美礼拝チームの一員となってドラムを担当するまでになり、引き続き祈りが聴かれていることを目の当たりに出来ることは素晴らしいかぎりです。尚榔君は、今や、イエス様が尚榔君の人生に対して持っていらっしやるご計画のリズムに合わせてドラムを叩いているかのようです。祈りには、力がありますね!

中野牧師、ダフィー尚榔君、
竹内師 (シアトル)

私たちは、祈ることで自分を低くし、神様の御旨に自分を合わせていくことが出来ます。私たちの教会は、引き続き祈りながら、教会の将来に対する神様の御旨を尋ね求めています。主のご計画に私達が沿っていけるようお祈りくだされば幸いです。おそらくは、次号で、教会に大きな変化が起こったことをお知らせできることでしょう。神様が、どのようにこの群れを導いてくださるのが楽しみです。祈り続けて参りましょう! *



中野ユリ牧師

ウエスレーチャペル日系教会

ウエスレー教会員 100歳を祝う

吉田エドワード牧師



吉田エドワード牧師と陽子夫人

17年以上前になりますが、ダウンタウンで偶然、以前のESLの生徒に会いました。その時彼女は高齢になった母親のことを気にかけていました。かなり前に退職し、彼女と彼女のご主人と一緒に暮らしていますが、共働きのため日中その母親は1人で過ごしており、英語が話せないことに友達がいないことも重なり、孤立している状態でした。

その後何年かしてその母親は、私達の教会のシニアクラブに加わるようになりました。シニアクラブは毎年、ハミルトンのボタニカルガーデン、ニッポニアホーム、斉藤ハンクのファーム、ナイアガラ・オン・ザ・レイクそして最終目的地のナイアガラの滝と、お弁当をもって出かけています。

その後、彼女の娘と彼女のご主人が引越し、教会との距離が遠くなり定期的に礼拝に来ることが難しくなりましたが、ある日礼拝にやってきた彼女は密かに洗礼を受けたいとの意を私に告げました。そしてその願いは叶えられました。何年かして彼女はモミジシニアセンターに移り、着物姿の小柄なおばあちゃんとして知られるようになりました。毎月第1木曜日に私達がモミジセンターで行っている「チャペル」の時間を楽しみにし、「ホームデリバリーサービス」

だと言って喜んでくださいました。しかし年が立つにつれ寝たきりの状態となり娘さんの家に戻されましたが、イーホンセンターのオープンに伴い、最近センターへ移ることができました。

そしてそこで、ウエスレーチャペルの教会員と家族が一緒になって、彼女の100歳の誕生日を賛美の歌を歌ったりバースデーケーキを食べたりしてお祝いしました。

(モミジセンターも前の日に彼女の100歳の誕生日のお祝いをしてくださっています。) 彼女はとても喜んで普通の大きさのケーキをペろりと食べ、聖歌も一緒になって歌いました。彼女の長女もラスベガスからお祝いに駆けつけていましたが、教会員に誘われて日曜日に教会の礼拝に出席し、メッセージを聞いてイエスキリストを救い主として受け入れました。

ですからこの週末は2つの特別な誕生日のお祝いとなりました。ひとつはこの地上における誕生日、もう1つは天国における誕生日です。*



荒関さんと100歳の誕生日ケーキ



メアリー・ホールドクロフトさん

(1ページ続き)
また、バンクーバー福音教会のそくがわさん、山形県米沢興譲教会の高野昭牧師、バンクーバーのオークリッジバプテスト教会の森永雅夫牧師が、CJMのミニストリーに関わる証をして下さいました。その後、CJMの60年間の歩みの写真がスライドショーで映し出されましたが、ホシザキ・ビルさんはこのスライドショー作成のために多大な労力と時間を費やしてくださいました。そして最後に、マーガレット・リッジウェイの共

労者メアリー・ホールドクロフトさんの言葉によってこの素晴らしい夜は幕を閉じました。

日本の沖縄、ハワイやアメリカ本土、それにカナダのさまざまな場所から多くの方が出席してくださいました。発足当時のCJMに関わった方々も4人出席してくださいました。それは、ケローナのメアリー・シャープルズさん(101歳)、ウイニペグの岡本タットさん、エドモントン近郊のシェーウッドパークの岩淵ビルさんとジャックさんの4人です。

「なんと素晴らしい時間でしょうか。」
「キリストによって結ばれている私達が集まるこの時は、天

国の情景を垣間見るような気持ちだ。」
「CJMの歴史を身近なものに感じた。福音とイエス・キリストに根ざした土台を私達は受け継いでいる。」このような感想を祝典に出席したいろいろな方からいただきました。



岡本タットさん

日曜日の夜にはリッチモンドのロンドンヘリテージファームで、バーベキューが行われました。80人ほどの人が出席し、そのテーブルはBCのホワイトサーモン(寄付して下さったノーマ・ダンさんに感謝します。)、お寿司、サラダその他地域の教会の方々や委員の方が持ってきて下さった食べ物で埋め尽くされました。

この記念祝典のためにバンクーバー地区に住む多くの方が尽力してくださいました。家を開放して委員の仕事場として下さった前役員のグダイマチコさん、また、委員のアリノブ・エドさん、刈谷ポールさん、福迫徹也牧師、ブラウン・ロバートさんに深く感謝します。参加者みなにとって、忘れがたい素晴らしい祝典になったことは言うまでもありません。*

2005年の1月から3月にかけて行われた「40日の目的キャンペーン」は私たちの教会により実りをもたらしてくれました。そして私たちはそのよい実を、現在まで継続してみることが出来ます。

スモールグループ：

キャンペーンの前には定期的なスモールグループ参加者は18人程でしたが、キャンペーン中には133人が参加し、霊的成長と伝道の素晴らしい機会となりました。そして現在も80人以上がスモールグループに属し、「Day41」などを用いて学びと成長の時を持っています。

リーダーシップ・リトリート：

数年前にJGCTは「目的先行型教会モデル」を教会成長の基盤として取り入れることを決定しました。その後、それに向かい幾つかの大きなステップを踏んできましたが、今回10月21日にはリーダーシップ・リトリートを行い、私達は誰に届いていくべきなのか、その人はどこに住んでいるのか、どのようにして届いていくのかといったような「ターゲット」をより明確にしていきたいと思います。

フェア・グレン サマーキャンプ：

キャンプミニストリーはいつも私たちに最も効果的な伝道やリーダー養成の機会を提供してくれます。今年、参加者数は少

し減りましたが、素晴らしい内容のものとなり、キャンプに引き続き週ごとのイベントも充実しました。より多くの人にこのキャンプを知ってもらい届いていけるよう話し合っています。

教会堂建設計画：

5年ほど前、JGCTは1.5エーカーの土地をスカーボロ地区に購入しました。そして今、教会堂建設が現実化してきています。教会のマネジメントチームは新谷マツトさん、シー・デイビットさん、市川ヘンリーさんで構成されていますが、建築家とプロジェクトマネージャーのノーブル・デイビットさんと密に連絡を取り、最近、市に建築プランの詳細を提出しました。着工に入るのは2007年の春だと予想されています。スムーズに進み、市からの建築許可も速やかにお祈りください。*



JGCT教会堂のモデル



横田スタン師、アイリーン夫人

CJMを振り返って

横田スタン師—トロント日系福音教会名誉牧師横田

60年ほど前に、私をキリストへと導いて下さったのはエド・シャープルズさんでした。CJMの60周年記念を101歳を迎えたシャープルズさんとその2人の子どもヘレン、メーブルと一緒に祝えるのはなんと嬉しいことでしょう。私が10代の

ころ、シャープルズさんの家はCJMの活動の中心地となりました。オカナガンで行われた連日の伝道集会では長野ポール牧師とタマギ・ビル牧師がリードしてくださり、何人もの人がキリストへと導かれました。そしてその中の何人かは聖書学校へと行き、私もその波にのって聖書学校へと入学しました。聖書学校に通っていた頃、バンクーバーで吉田エドワード牧師のCJMミニストリーのアシスタントをし、卒業後はトロントでCJM宣教師として奉仕をしていた木下ヒコさんとエゼル夫人の働きに加わりました。その頃のCJMディレクターチャールズ・ベイリー牧師はミシサガに住んでおり、トロントでの奉仕に必要な車を私達に用意してくれました。50年の間に、ユース活動やリトリート、サマーキャンプやその他さまざまな活動を通して教会は成長していきました。現在もトロント日系福音教会が続いているフェア・グレンキャンプ場でのサマーキャンプは、CJMが1955年に発足したもので、ごく初期の頃からこのキャンプミニストリーはアウトリーチとして、また弟子訓練の場として効果をあげていました。60周年祝典では、CJMの先駆者でありバンクーバーで共に奉仕したユースグループの旧友に会うことができ、妻のアイリーンと私は感激の思いでした。この創設

から現在に至るまで、ユースに焦点をあて続けているCJMの働きは、祈りを受けるに値するものです。

CJM創設者のマーガレットリッジウェイは私達の引退にあたってこのように書いてくれました。

「スタンとアイリーン、お2人が長年に渡り、誠実にイエス・キリストと教会に仕え奉仕してきたことは2人のことを知る人たちの心に深く残るでしょう。私もあなた達がバンクーバーでもトロントでも家を開放しあたたかくもてなしてくれたことを決して忘れません。お二人が誠実であり、聖書をよく理解し、愛なる行いとしてきたことは多くの人々の中に実りをもたらしたことでしょ。そしてこれからも二人が実を实らせ続けることを確信しています。主の平和と喜びが主とまみえる日まで、いつも共にありますように。」*



1988年ユースリトリート
ニューライフキャンプサイトにて